

(お 知 ら せ)



平成 23 年 7 月 12 日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所の近況について

敦賀発電所の近況について、以下のとおりお知らせします。

1. 運転状況について（7 月 12 日現在）

1 号 機 沸騰水型（35 万 7 千 kW）	第 33 回定期検査中 定期検査の工程表は別紙 1 のとおり
2 号 機 加圧水型（116 万 kW）	1 次冷却材中の放射能濃度上昇に伴い 原子炉停止中

（ ）内は定格電気出力

2. 故障等の状況について（平成 23 年 6 月 4 日～平成 23 年 7 月 12 日）

（1）法律に基づく報告事象

なし

（2）安全協定に基づく異常時報告事象

なし

（3）保全品質情報等

1) 敦賀発電所 2 号機 排気筒ガスモニタの一時的な指示値の上昇について

（5 月 8 日排気筒ガスモニタ上昇の原因と対策）

敦賀 2 号機は、原子炉停止中の 5 月 8 日に、排気筒ガスモニタの指示値が僅かに上昇していることを確認しました。この時、放射性ガスを化学体積制御タンクからガス減衰タンクへ排出する作業を行っており、同作業を中断し、排気筒ガスモニタの指示値は通常値に戻りました。

（平成 23 年 5 月 9 日、21 日、6 月 3 日お知らせ済み）

5 月 8 日の排気筒ガスモニタの指示値上昇の原因を調査したところ、水素再結合装置の反応器フランジ 3 箇所と水素再結合装置周りの配管溶接部等 33 箇所に微小な漏えいを確認しました。

当該反応器フランジは O リングを用いてシールしていますが、使用していた O リングにはシール性の良い銀メッキ加工が施されておらず、フランジ面のシールが不十分であったことから漏えいが発生し、排気筒ガスモニタの指示値が上昇したものと推定しました。

また、水素再結合装置周りの漏えいが確認された配管溶接部の詳細調査をした

結果、配管内面には塩素が付着していること、溶接部近傍に腐食および割れが発生し、貫通していることを確認しました。

この腐食については、反応器に内包されている触媒から溶出、蓄積したと思われる塩素と漏えいがあった反応器フランジから取り込まれた空気中の酸素とが反応して発生し、腐食を起点として応力腐食割れが発生したものと推定しました。

対策として、反応器フランジ部に使用しているＯリングについて、シール性能にすぐれた銀メッキ加工を施したのものに取り替えます。また、水素再結合装置周りの配管について、新しい配管に取り替えます。

(平成23年7月12日ホームページ掲載)

2) 敦賀発電所1号機 濃縮廃液貯蔵タンク（D）タンクベント配管からの析出物について

敦賀1号機は、第33回定期検査中の平成23年6月18日、巡視点検において、新廃棄物処理建屋地下1階濃縮廃液貯蔵タンク（D）室内の床面に滴下跡を確認し、その上部にあるタンクベント配管に乾燥した析出物が付着していることを確認しました。床面の滴下跡および析出物の放射能測定の結果、検出限界値未満でした。

析出物を分析した結果から、同タンク内廃液と同様の薬品成分（硫酸イオン等）であることを確認しました。また、当該配管肉厚測定の結果、析出箇所近傍の配管に減肉やさらに1箇所の析出を確認しました。

析出物は、同タンク内の硫酸イオンを含む気体が当該配管に流れ、配管の腐食が進展、貫通して、その箇所からしみ出たものが乾燥し析出したものと推定しました。

現在、析出物があった箇所について養生しており、今後、新しい配管に取り替えます。

本事象による周辺環境への影響はありません。

(平成23年7月12日ホームページ掲載)

3. 敦賀発電所3, 4号機 準備工事について（7月12日現在）

(1) 建設準備工事

現在、原子炉建屋背後斜面の追加切取工事、止水壁の構築工事、中央溪流砂防堰堤準備工事等を行っています。

(2) 仮設工事関係

浦底湾側の仮設用地内にコンクリートプラント設備を設置する工事を継続して行っています。

4. 東北地方太平洋沖地震関係

当社は、平成23年3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震に起因する東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故について、シビアアクシデントへの対応に関する措置の実施、吊り下げ型高圧遮断器に係る火災防護上の必要な措置の実施、開閉所等の地震による影響評価を行いました。

なお、今後も全力を挙げて事故の情報収集、分析を継続し、新たな知見が得られた場合には必要な対策について、迅速かつ的確に反映してまいります。

詳細については別紙 2 をご参照下さい。

5. その他

(1) 敦賀発電所の低レベル放射性廃棄物の輸送について

平成 23 年 6 月 10 日から 6 月 12 日、敦賀発電所の低レベル放射性廃棄物（ドラム缶 192 本）を、青森県六ヶ所村の日本原燃株式会社低レベル放射性廃棄物埋設センターへ輸送するための作業を行いました。

（平成 23 年 6 月 9 日発表済）

(2) げんでんふれあいギャラリー

＜個人・グループでの芸術活動、趣味の発表の場としてご利用頂いております。＞

1) アラ還二人の書の個展・こてん

〔玄々社に所属されている、山下湊舟様、山下蒼石様のお二人による書作品展です。墨と筆と木筆、わら筆等いろいろな用具を筆として書かれた作品を約 30 点展示予定です。〕

(7/19～7/24)

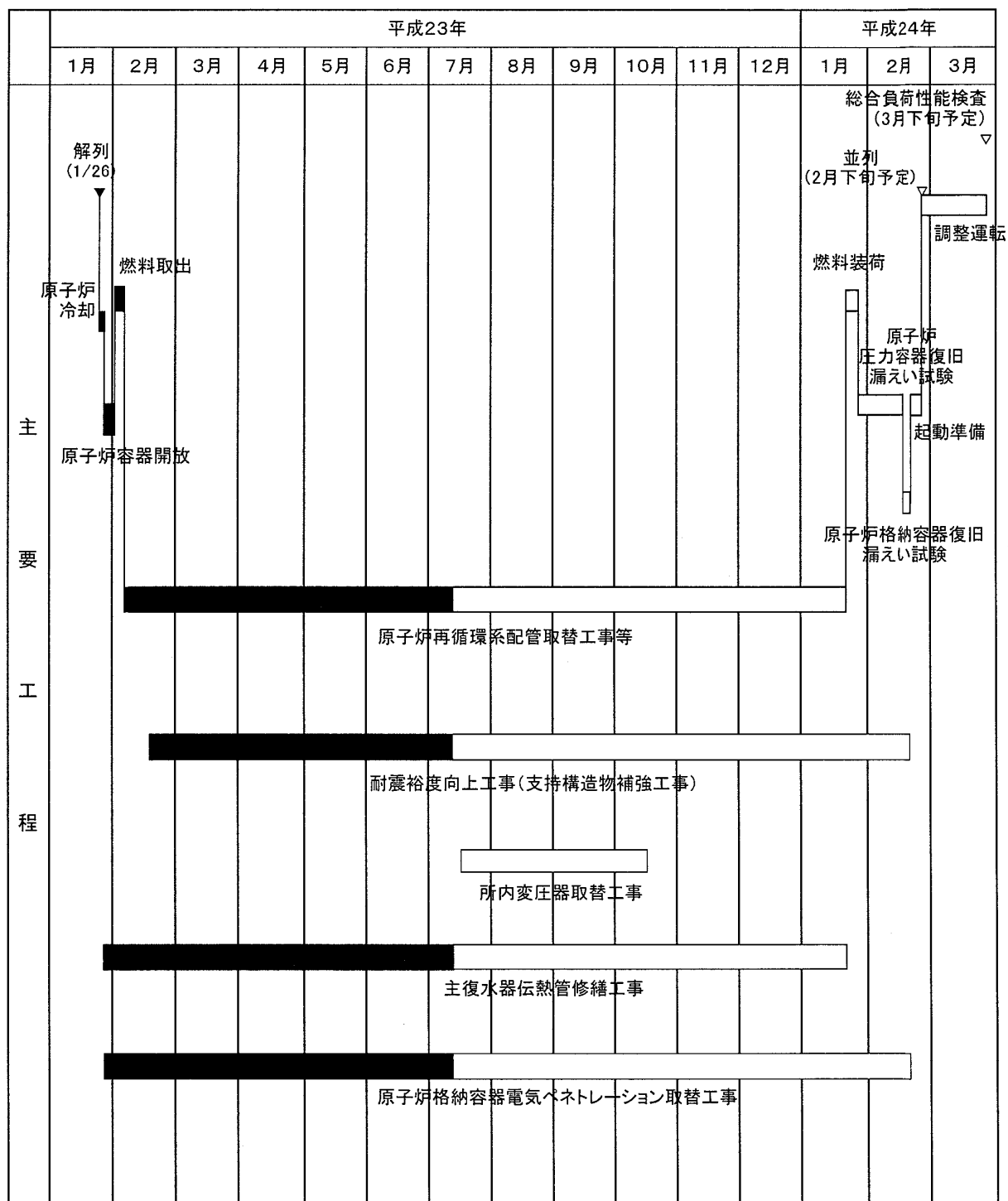
2) 第 2 回 写団・フォト南 例会展

〔自主学习教室で活動されているグループ「フォト南」（代表：藤本 ふみ子様）の皆様による写真展です。季節の移り変わりに合わせて、毎月 1 回撮影旅行をされています。過去 1 年間に撮影された作品を約 30 点展示予定です。〕

(7/26～8/7)

以上

敦賀発電所1号機 第33回定期検査工程表



東北地方太平洋沖地震への対応実績（５月３日以降）

（１）シビアアクシデントへの対応に関する措置の実施について

当社は、経済産業大臣からのシビアアクシデントへの対応に関する措置に関する指示に従い、以下の項目の実施状況を原子力安全・保安院へ報告しました。

- ①中央制御室の作業環境の確保
- ②緊急時における発電所構内通信手段の確保
- ③高線量対応防護服等の資機材の確保及び放射線管理のための体制の整備
- ④水素爆発防止対策
- ⑤がれき撤去用重機の配備

（平成２３年６月１４日発表済）

また、６月１５日から６月１６日にかけて、原子力安全・保安院による立入検査を受け、６月１８日、当社発電所における実施状況については「適切に実施されているものと評価する」との結果をいただきました。

（平成２３年６月１９日お知らせ済）



1号機原子炉建屋頂部の穴あけ模擬訓練
（６月１５日）



1号機原子炉建屋頂部へのアクセス訓練
（６月１５日）

(2) 吊り下げ設置型の高圧しゃ断器に係る火災防護上の必要な措置の実施等について

当社は、原子力安全・保安院からの指示に基づき、吊り下げ設置型の高圧しゃ断器の有無および火災防護上必要な措置の実施計画を取りまとめ、原子力安全・保安院に報告しました。

当社では吊り下げ型高圧しゃ断器が敦賀発電所1号機に4台設置されており、対策としてこれらの下部スペースに揺れ止め用の固定架台を設置することとし、その措置が完了するまでの期間、当該しゃ断器を使用しないこととしました。

(平成23年6月15日発表済)

(3) 原子力発電所等の外部電源の信頼性に係る開閉所等の地震による影響評価等の報告について

当社は、原子力安全・保安院からの指示に基づき、開閉所等の電気設備が機能不全となる倒壊、損傷等が発生する可能性についての影響評価等を、原子力安全・保安院に報告しました。

敦賀発電所における評価対象設備は設計上の裕度を上まわっており、設備の信頼性は確保されていることを確認しました。

(平成23年7月7日発表済)

(4) 支援の実績について

当社及び当社関係会社では、東京電力並びに関係自治体等に対し、応援要員の派遣、消防ポンプ車や放射線測定器等の資機材の提供を行っています。

1) 要員派遣実績(7月11日現在)

当社及び当社関係会社から20人(このうち敦賀地区からは5人)派遣中。

(3月15日以降の累計は、全社合計で延べ2,015人・日)

2) 資機材の提供実績(7月11日現在)

消防ポンプ車 1台

放射線測定器類(サーベイメータ、ポケット線量計等) 約130台

防護服 約4,900着

その他(放管資機材)

当社は引き続き安全を最優先に、皆様に安心していただける発電所を目指し運営にあたり、今回の福島第一原子力発電所における事故を踏まえて、必要な対策を速やかに実施し、発電所の安全確保に万全を期してまいります。

以上